

兵庫県こころのケアセンター 平成27年度実施分に係る
外部評価委員会 業績評価（総合評価）

所 見

- 1 平成16年4月の開設以降、トラウマ・PTSDに関する専門的な相談・診療、研修・研究等の機能を持つ全国初の「こころのケア」の拠点施設として、調査研究・研修・相談・診療・地域支援活動など、多様な取り組みを進めてきた。この間、東日本大震災の被災地支援等の精力的な活動展開等、社会的なニーズに応じた活動展開の工夫や活動の質の確保、研究成果の公表・共有、情報発信、国内外の災害や事故による被災者と支援者のこころのケアの実践・教育・コンサルテーション活動等々、これらを連動させつつ効率的かつ効果的に展開している。
- 2 従来より、「こころのケア」に関する専門知識と専門技術の開発と普及に務め、研修事業、情報の収集発信・普及啓発事業、連携・交流事業、ヒューマンケアカレッジ事業のそれぞれについて効果的な活動を行い、いずれについても高い評価を受けた。特に当該年度においては、ホームページにおいて、サイコロジカルリカバリースキル教育DVDの動画を新たに掲載する等、内容の充実にも努めた結果、年間目標を大幅に上回るアクセス数があり、当センターが発信した情報が多くの人たちに活用され、貴重な社会貢献を果たしたといえる。
- 3 また、当該年度において特筆すべき事項として、「ひょうごDPAT」体制充実のための研究を行い、この研究結果を研修に活かすことにより、平成28年4月に発生した熊本地震への支援につなげたことは、全国のDPAT活動をリードするものであったことは高く評価できる。
- 4 さらに、東日本大震災の被災地への支援が継続的に実施され、当センターの経験と知識が活用され、県内でも洲本市殺害事件等について、コンサルテーションなどの支援が行われ、当センターの専門性と特殊性が発揮された。
- 5 独自の役割に関する全国的な認知の広がりや積極的な活用の好循環は、相談・診療事業および調査・研究にも見られる。相談・診療事業では、当センターの特色が認知されトラウマ・PTSDに関連した相談・診療件数が増えており、症例と臨床経験がさらに蓄積されつつある。調査・研究については、短期研究の「子どもの心的外傷性悲嘆に関する効果的な啓発ツールについて」の研究では、ビデオ教材の作成により、専門家への啓発と知識の普及に有効になることが期待でき、長期研究では、被災者への面接の積み重ねが、心理的苦痛のピークに関する知見などが得られ、長期的な視点からの研究が継続することでさらなる成果につながるものと思われる。
- 6 以上のように、調査研究、情報発信、研修、相談、診療、連携交流等の事業を有機的に関連させながら効果的に展開されてきており、トラウマ専門機関としての高い評価と信頼を生み出している。また、職員がこれらの活動を高いモチベーションをもって行っていることも評価する。
- 7 今後の課題として、ヒューマンケア実践普及講座の定員充足率が目標を下回っているが、受講者の満足度が高く、有益な講座であったと思われるので、今後も受講者ニーズの把握に努めながら、多くの県民が受講できるよう、開催日時、内容などの面での検討を要するものと思われる。
- 8 一方、当センターは、このように日本の公共財として非常に重要なミッションを有していることから、設置主体である兵庫県の理解を求め、東日本大震災、熊本地震への支援や今後の想定される大規模な災害への対応等、今後ますます高まっていく社会的な要請を踏まえ、職員の高いモチベーションを維持し、更なる前進を可能にするような人的財政的拡充を図るべきである。